

特別展

三千家のはじまり

江岑宗左と千家茶道の確立

令和四年十月八日（土）～十二月十八日（日）

一部展示道具を入れ替える場合がありますので、
予めご了承ください。
展示室での写真撮影は、ご遠慮ください。

表千家北山会館

◎ 二階展示室 出自と家族

棚 江岑好 桐木地四方 随流斎・碌々斎在判

掛物 元伯筆 忍達磨画賛

風炉 江岑好 唐銅鳳凰

香合 琉球青貝写 中村(元斎)宗哲作

掛物 元伯筆「左右逢源」

茶碗 ノンコウ作 赤 元伯直判

茶杓 江岑作 共筒 二本入 銘 十郎 五郎

香合 江岑好 木地丸 同在判

掛物 江岑道号 玉舟宗璠筆

花入 江岑作 竹一重切 銘 青山 江岑直書付

水次 江岑好 舟 銘 長生丸

掛物 利休所持 片口 江岑在判

茶杓 閑翁宗拙筆 円相

茶碗 閑翁宗拙作 共筒 銘 一条鉄

花入 利休所持 樂長次郎作 木守写 樂了入作

掛物 覚々斎好 手付置籠

香合 仙叟宗室筆「覚」 千宗左宛

茶杓 五老松 随流斎在判

茶書 三浦宗巴作 共筒 銘 鉄笛

長持 江岑筆「千家先祖書」

掛物 葵紋 碌々斎宗員筆 富士画賛「白扇倒懸東海天」

◎ 三階展示室 紀州徳川家への仕官

掛物 元伯筆 知行祝儀の文 千宗佐(江岑)宛

茶会記 江岑筆『午ノ二月 御茶湯之覚』

建水 利休所持 大脇差写 樂左入作

水指 利休所持 捻貫写 樂旦入作

碌々斎箱

啐啄斎箱

江岑外題 了々斎箱

江岑・碌々斎箱

啐啄斎・碌々斎箱

如心斎箱

了々斎箱

随流斎・啐啄斎・了々斎箱(展示期間 11/13まで)

啐啄斎箱(展示期間 11/15から)

啐啄斎箱

如心斎箱

如心斎箱

了々斎箱

啐啄斎外題・了々斎箱

如心斎・啐啄斎箱

惺斎箱

掛物 沢庵宗彭筆 仮名法語
史料 『千利休由緒書』

茶碗 ノンコウ作 御紋 紀州徳川家より江岑拝領

茶入 唐物 大海 江岑好 三木町 如心齋直書付

棚 江岑好 三木町 如心齋直書付

家督相続と三千家の成立

巻物 元伯筆「家屋敷讓狀」・江岑筆「書置」

掛物 元伯筆 元旦試筆 江岑筆 元旦試筆添書

花入 元伯所持 伝来経筒

香合 江岑好 溜塗独楽 三代中村宗哲作

掛物 「宗左」号 清巖宗渭筆

茶杓 江岑作 共筒 源三郎へ

文書 元伯書狀 承応元年(一六五二)七月四日付 千宗左(江岑)宛
元伯書狀 慶安二年(一六四九)十二月十六日付 千宗左(江岑)宛

江岑の茶の湯活動

台子 元伯好 青漆爪紅

掛物 後西天皇宸筆 和歌懐紙

水指 東福門院御作 縫絵「三輪」 元伯拝領

江岑好 朱手桶 了々齋直書付

掛物 江岑筆書狀 興善院宛

炭斗 江岑所持 蓬萊山写

茶入 瀬戸米市 片桐石州より江岑拝領

掛物 片桐石州筆書狀 千宗佐(江岑)宛

茶杓 江岑作 共筒 銘 須磨 明石 表具 啐啄齋好

掛物 江岑筆 江岑作共筒茶杓 銘 須磨 明石 添狀 瀬戸米市茶入に添う 啐啄齋・了々齋・碌々齋箱

文書 真巖宗見書狀 年月日未詳 江岑宛力

江岑挽家書付・了々齋箱

如心齋箱

如心齋箱

即中齋箱

江岑・啐啄齋・了々齋・碌々齋箱

了々齋箱

了々齋箱

了々齋・而妙齋箱

如心齋箱(展示期間 11/13まで)

(展示期間 11/15から)

茶書の執筆

茶書 江岑筆『江岑咄之覚』

花入 利休所持 高麗筒写 永樂保全造

茶碗 利休所持 樂長次郎作 鉢開写 樂了入作

茶書 如心齋筆『逢源齋記録』(江岑筆『逢源齋書』写)

掛物 如心齋筆 小倉色紙三首

茶杓 啐啄齋作 共筒 三夕 浦のとまや

茶書 江岑筆『伝聞事』

花入 伝来 黄瀬戸 立鼓

茶会記 江岑筆『巳ノ閏六月より茶之湯之覚』

茶碗 利休所持 樂長次郎作 東陽坊写 樂了入作

不審菴模型

掛物 江岑書状 大殿様へ御茶差上げ候節の文

花入 竹二重切

釜 丸 大西浄玄作

炉縁 木地 即中齋在判

水指 木地釣瓶 利休所持 大黒写 樂了入作

茶碗 一服入棗

茶器 即中齋作 共筒 利休両口写 利休三百五十回忌の折

建水 面桶

蓋置 竹 了々齋在判

◎地階ロビー

文書 江岑筆『逢源齋書上』

江岑筆『逢源齋書下』

江岑筆『申ノ茶湯ニ逢申候覚』

江岑筆『江岑聞書』

啐啄齋箱

了々齋箱